

## 令和7年度 第2回 川崎市社会教育委員会 青少年科学館専門部会議事録

日時 令和7年11月5日(水) 14:00~14:50

会場 川崎市青少年科学館(かわさき宙と緑の科学館) 自然学習棟2階学習室

出席者(敬称略)

- (1) 委員 (公募市民) 南條邦子(副部会長)、間渕秀和  
(学識経験者) 佐藤武宏、山岡均、常喜豊  
(家庭教育関係) 眞壁総子(部会長)
- (2) 事務局 久保館長、弘田、高中、清水、渡邊(司会進行)、齋藤(記録)、  
内藤、上田(生田緑地共同事業体)
- (3) 傍聴者0人

### 1 開会(渡邊)

事務局より開会告知、会議の成立、傍聴者受入(定員5名)、記録(録音及び筆記)作成及び会議記録公開について周知(傍聴者なし)、資料確認。

### 2 館長挨拶(久保館長)

本日は、大変ご多忙の中、令和7年度第2回青少年科学館専門部会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、本年度第1回の会議を7月9日に開催させていただいたところですが、その1年前の令和6年6月28日、昨年度の第1回専門部会の冒頭、私の挨拶としまして、当館の知名度があまり高くない、というようなお話をさせていただきました。

私どもとしましては、報道機関への情報提供を強化したり、SNSの投稿を工夫したりと様々な努力を積み重ねてまいりましたが、やはり科学館で来館者を待つだけではなく、積極的に生田緑地を飛び出して、外へ出かけようということで、昨年の宮前市民館に加え、今年初めて、9月14日に多摩市民館で開催された「たまたま子育てまつり」にプラネタリウムを持参して投影したり、先日の2日の日曜日には、川崎駅前で開催された、大変大きなイベントである「みんなの川崎祭」に、双眼実体顕微鏡を持参して出店し、通りすがりの皆様に様々な物の細かい部分を覗いてもらったり、1か月後の12月5日には、事前申し込みの抽選ではありますが、臨海部にある川崎マリエンで星空観望会の開催を予定していたりと、館の職員の数に限りがある中で、何とかやりくりしながら様々なところに出向いて、活動を重ねてまいりました。

ただ、事業の目的は、単に当館の知名度を向上させることに留まりません。

再三申し上げているところではありますが、今や、ほとんどの情報はインターネットで入手できますし、AI技術の急速な発展により、何が真実なのか、逆に自分自身で咀嚼する、かみ砕いていく能力が問われている状況です。

子どもたちも、今、かわさきギガスクール構想もあって、いろんな知識・情報をネットで入手し、使いこなすようになっております。

そんななか、当館においては、川崎市内様々な場所において「体験」というキーワ

ードを盛り込むことで、さらに多くの方々に親しまれ愛される科学館として、魅力ある科学館づくりを推進してまいりたいと考えております。

また、話は変わりますが、委員の皆様方におかれましては、委員の任期は今年度いっぱい、正確には来年の4月末までとなっております。

皆様方、様々にお忙しいご事情を抱えていらっしゃると思いますが、できましたらどうか、引き続き当館の事業の今後の発展を見届けていただきたく、その中でまた様々な御指導を賜りたく、来年度以降につきましても引き続き委員の御就任につきまして、ご考慮いただきたいと考えております。

今後のことにつきましては、また御相談させていただきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

本日の主な議題といたしましては、次第にございますように、令和7年度の事業の進捗状況等を御説明させていただき予定となっております。本日の会議においても、委員の皆様から様々な御指導・御助言を賜りますようお願いいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

## **議事進行（眞壁部会長）**

### **3 議題 令和7年度 青少年科学館事業実施中間報告について**

資料1により「(1) 収集保存事業」について事務局より説明

#### **高中【自然分野】**

1の収蔵資料の収集・分類・整理（台帳化）では、収蔵庫にある未登録資料のうち既存の昆虫標本4,000点を目標に整理・登録（電子台帳化）進めており、9月末までに未登録資料は1,762点を登録しております。また、植物、昆虫について新規資料の作製を進めております。

2のGBIF等国内外機関への資料情報の提供では、「サイエンスミュージアムネット（S-Net）」「地球規模生物多様性情報機構（GBIF）」への資料データを提供することで国内外への収蔵資料情報を公開しております。植物標本等について、資料1では予定となっておりますが、10月末に1,100点の提供を済ませております。

#### **弘田【天文分野】**

1のプラネタリウム番組のアーカイブ化については、毎月行っている一般向け番組制作の際に収集した資料、画像、動画等の番組素材やプログラム等のアーカイブ化を行っています。資料のデータベース化については、他館の事例を調査するなど、今後の構築と公開に向けた検討を行ってまいります。

2の天文資料の整理保存については、故冨田氏、故箕輪氏から寄贈された天文資料を整理保存し、目録作成を進めております。また、紙資料のデジタル化を行っており、太陽黒点スケッチのデジタル化を行っています。

#### **清水【科学分野】**

サイエンス教室・サイエンスワークショップ等で提出される計画書・報告書を実践事例

集の作成に向けて管理しています。また、館内視聴を踏まえ、科学工作を紹介する動画更新のため、市民団体と題材の検討に入っています。

収集保存事業は、以上です。

### 【(1) 収集保存事業について質疑応答】

間瀬委員 自然の方ですけれども収集で10月までで1,100点の提供とのことでしたが、今後の計画はございますか。

高 中 国立科学博物館が事務局で、そこに回答した件数に対して査定が入っているので今年度はこの件数となります。

常喜委員 未登録資料の登録ということで、昆虫標本は4,000点とありますが、未登録資料1,762点の登録、は全て昆虫でしょうか。

高 中 昆虫の登録から進めていますので、全て昆虫となります。

山岡委員 富田さんや箕輪さんからの資料というのは紙ベースの資料のみでしょうか。実体のものなどはあるのでしょうか。

弘 田 ほぼ全て紙の資料となります。

山岡委員 デジタル化が必要ですね。

### 資料1により「(2) 展示事業」について事務局より説明

#### 高中【自然分野】

1の生田緑地の自然情報の発信では、生田緑地における自然について、受付横の生田緑地マップや SNS などを活用してリアルタイムな情報発信を行っております。生田緑地マップは2週間に1回程度で更新、SNSは9月末時点で自然分野の展示に関する情報発信を含め21回更新しております。

2の自然史資料による常設展示の更新では、生田緑地の四季だより、ピックアップ展示で新たな標本・キャプションによる展示更新を実施してまいります。9月末時点で、四季だよりを2回更新、ピックアップ展示を4回更新しております。

3の5月10日の地質の日を記念した特別展示の開催では、当館収蔵の川崎市地域文化財「オシ沼切通し多摩ローム層模式露頭剥ぎ取り標本」の5点、全長約20mを5月11日に公開いたしました。当日の観覧者数は延べ913人でした。

4の企画展の開催「どうなる？どうする？生物多様性と外来生物」として、生物多様性と私たちの暮らしの関わりや外来生物によって引き起こされる問題に焦点をあてた企画展を実施いたしました。期間中の観覧者数は延べ9,479人でした。

#### 弘田【天文分野】

一般向け投影は職員の自主制作により1ヶ月ごとにテーマを変えて投影しています。子ども向け投影はこれまでに制作した番組を約2ヶ月ごとに入れ替えて投影しています。また、今年度中に子ども向け新番組を制作する予定です。

「星空ゆうゆう散歩」は平日午後にシニア向け投影として実施しているもので、元職員

の國司眞氏を講師に迎えて毎月開催しております。9 月までに 5 回実施し、観覧者数は 748 人でした。

ベビー&キッズアワーは乳幼児とその保護者を対象に月に 2 回程度実施しています。9 月までに 8 回開催し、観覧者数は 576 人でした。

学習投影は、小中高等学校それぞれの学習指導要領に沿って投影を行います。また幼稚園・保育園等を対象とした投影も実施いたします。

星空自由空間は平日の一般団体による貸切利用として受入れています。5 月に病院職員のレクリエーションとしての利用が 1 件ありました。

プラネタリウム字幕付き投影を関係機関等の協力を得て 2 月に実施予定です。

天文関連展示では、春と夏の星に関するミニ展示を実施しました。10 月にオーロラ上映会に関連してオーロラの写真パネル展を開催します。また、市役所本庁舎でのオーロラ写真展を開催予定です。

## 清水【科学分野】

市民協働の科学工作展示では、今年度よりサイエンスワークショップの広報として、市民団体から提供を受けた工作物等を週毎の入れ替えを基本に科学館 1 階入口正面で展示しています。また、科学実験教室・サイエンスワークショップ等で取り組んだ科学工作物や原理をパネル展示や映像資料として公開するため、科学市民団体と題材の検討に入っています。

展示事業は、以上です。

## 【(2) 展示事業について質疑応答】

南條委員 自然分野の SNS の Instagram を拝見していますが、あちらの方は結構頻繁にやってらっしゃるようですが、曜日とか日を決めて発信しているのでしょうか。

高 中 自然情報ですのでその時々で、植物の花とか実がついているものとなります。植物の情報を公開していないこともあります。

南條委員 決めてはいなくて、あった時にということですか。

高 中 その通りです。

## 資料 1 により「(3) 調査研究事業」について事務局より説明

### 高中【自然分野】

1 の市域の生物調査では、生田緑地を中心として、市域における動植物相解明を進めるための生息種の確認調査を行うとともに、生息状況把握のための実態調査を継続しております。

### 弘田【天文分野】

市民協働による川崎市域の星の見え方調査を夏季にインターネットを通じて実施し、95 件のデータが集まりました。冬季はデジタルカメラによる調査を実施予定です。また、太陽望遠鏡での白色光及び H $\alpha$  光による観測を随時行っております。また、今後、土星や

木星などの観測を行う予定です。

#### 清水【科学分野】

1 のワクワクドキドキ玉手箱の開発では玉手箱の新たなテーマとして、生物の多様性について体験を通して学べるキット「生きものを探ろう」の開発を10月末より進めるために市民団体と準備中です。

2 の GIGA 端末用教材の改良及び開発では、地層観察会に参加した川崎市内の小学校に GIGA 端末上で公開している小学校地層学習の教員向けデジタル教材を紹介することを通じて、教材に対する意見を収集しています。また、中学校向け GIGA 端末用教材の開発につきましては、10 月から本格化している学校の地層観察会の様子を基に、11 月以降検討を進めていく予定にしております。

調査研究事業は、以上です。

#### 【(3) 調査研究事業について質疑応答】

間瀬委員 天文ですが、川崎市域における星の見え方調査の結果はもう発表というか公開されてましたでしょうか。

弘 田 ホームページの方で公表していたかと思います。

常喜委員 今年の夏は暑くて、春と秋がなかったかような感じでしたが、自然の方は調査されていて大きな影響とかありましたでしょうか。

天文の方はこういうような気象の変化は何か天文に影響はありましてでしょうか。2 点伺います。

高 中 まず自然分野についてですが、今年度は私の方で主としての調査は実施しておりませんので現地での状況のことは分からないところがあるのですが、生田緑地観察会などの準備にあたる際の下見の時に同道すると、やはり少し季節がずれてるようなことは感じているところがございます。少し花が咲く時期が遅かったりといったずれを感じることがあります。

弘 田 天体観測に関しては、天候そのものの直接的な影響というのはないのですが、昼間の太陽の観察会ですとか星の観察会を実施しようという時に、やはり熱中症の気になるということで事業の実施に影響がございます。

星に関わることはありませんが、天気が悪く、週末ごとに曇りや雨ということで天体観測の方がなかなか行えない状況というところだと思います

山岡委員 星空の見え方調査、今年度 95 件ということでしたが、前年度の数字を御教授ください。

弘 田 前年度は 80 件となります。

山岡委員 だんだん増えてきているということですね。

弘 田 おかげさまで少しずつ浸透しているところです。

佐藤委員 科学の GIGA 端末の教材開発について伺いたいのですが、地層観察会に参加した学校ということで、この観察会自体を実施しているのは自然の分野でしょうか。

- 清水 地層の観察会は、自然科学班ということで対応しています。自分が主に科学と学校との関係を把握しているのでここに入ってくる形となっています。
- 佐藤委員 もう 1 つ伺います。たまたま地層観察会という催し物とリンクさせて開発をされていると思いますが、これはいずれ動物とか植物とか別分野のものも開発されていく予定でしょうか。
- 清水 今のところはまず地層からと考えています。生田緑地ならではの、というところから紹介できればと思っているので、一番は地層かなというところでやっています。あとは、学校さんの様子を見ながら、何を求められていくのかということを考えて開発できたらと考えております。

#### 資料 1 により「(4) 教育普及事業」について事務局より説明

##### 高中【自然分野】

1 の生田緑地観察会では、生田緑地の地質、野鳥、植物、昆虫など、四季折々の自然を観察する観察会を市民団体を講師として実施しており、9 月末時点で、8 回を開催し、2 回を雨天のため中止しております。

2 のサイエンス教室では、バックヤードツアー、学芸員のおしごと体験教室、多摩川での観察会を含む教室等を 9 月末時点で 4 回実施しております。

3 のサイエンスワークショップ（自然分野）特別展示とあわせて実施したワークショップを含め、動植物等をテーマに、自然に興味関心を持つきっかけとなるワークショップを 9 月末時点で 8 回実施しております。

4 の自然サポーター研修会では、自然分野の調査研究等を行う自然サポーターを養成することを目的とした講座を 4 回連続講座で実施しております。研修会は 9 月末時点で 1 回開催し、10 月中に 3 回実施しております。

5 の自然観察（地層・林）では、学習支援を目的に、小・中・高等学校の依頼に基づき、生田緑地内の地層・林の観察会を実施しており、9 月末時点で 1 校各 1 回を実施いたしました。

6 の総合的な学習の時間支援では、小・中・高等学校の依頼に基づき、総合的な学習の時間の支援を実施しており、9 月末時点で 1 校 2 回を実施いたしました。

##### 弘田【天文分野】

天文の教育普及事業について説明いたします。1 のアストロテラス公開事業は、平日昼間にアストロテラスを公開して太陽の観察を行っています。これまで 483 人が参加しました。また、月に 2 回程度、日曜日に「昼間の星を見る会」を開催し、太陽と 1 等星や惑星などを観察しています。天候不良や熱中症の危険のため中止が多く、9 月までに 2 回開催し、196 人が参加しました。

2 のアストロテラス夜間一般公開は、土曜日の夜間、晴天時に天体観察を行うイベントです。今年は特に天候不良の日が多く、9 月までに 2 回実施し、366 人が参加しました。

3 の特別観望会は、珍しくかつ観察しやすい天文現象等を観察するものですが、11 月

に環が消失した土星の観望会を開催予定です。

4のプラネタリウムワークショップは小学生を対象とした年間を通じた12回の連続講座で、プラネタリウムの番組を子どもたちが番組の企画・制作をし、発表会で投影する教室を実施しています。12名が参加しています。

5のプラネタリウム発表会は日本女子大学附属高等学校と連携し、天文クラブの生徒を対象に、プラネタリウムの番組制作、操作、解説等を実施しました。8月に発表会を行い、132人が見学に来られました。

6の天文講演会は年度後半に実施予定で講師と調整を行っております。

7の天文サポーター研修会は、天文事業ボランティアの会合を毎月1回実施し、事業の準備やスキルアップのための研修を行っています。

8のプラネタリウムイベント投影といたしまして、7月にウクライナのプラネタリウム解説員による投影を行い、100人が参加しました。また、東京交響楽団の団員によるプラネタリウムコンサートを11月に、オーロラの上映会を12月に開催予定です。

9のかわさき星空ウォッチングは、移動天文車アストロカーで市内各地に出向いて行う観察会を9月以降、依頼を受けて実施しております。

10の天文分野のサイエンス教室は、アストロテラスの望遠鏡を使った天体観察や日時計の工作、プラネタリウムのバックヤードツアーなど、9月までに5回実施し、79人の参加がありました。また、資料には記載はございませんが、市民の方から寄附金をいただいたことを受け、その有効な活用方法として移動式プラネタリウムの導入に向けて準備を進めているところです。

## 清水【科学分野】

1の出前科学実験教室では、小中学校等の依頼に基づき、市民団体を講師として科学教材であるワクワクドキドキ玉手箱を活用して行う科学実験教室を実施しています。9月末までに23回、延べ733人にご利用いただきました。

2のサイエンス教室（科学分野）では、科学の楽しさに触れられる実験や工作を行う事前申込制の教室として、9月末までに14回実施し、251人が参加しました。

3の子どもから大人まで楽しめる当日参加型のイベントであるサイエンスワークショップでは、初歩的な科学講座として簡単な工作や観察・実験を実施しています。9月末までで27回実施し、2,092人の利用がありました。ワクワクドキドキ玉手箱を活用した科学実験ショーは、11月3日及び、年明け2月23日に開催を予定していきまして、11月3日のサイエンスショーにつきましては液体窒素をテーマに284人が観覧するなど、大好評でした。

4の第20回かわさきサイエンスチャレンジでは、子どもの科学への関心喚起・促進を目的に、KSP（かながわサイエンスパーク）で8月開催の同イベントに参加し、8つの科学実験工作ブースへの出展協力を行いました。当日は合計961人の利用がありました。

5の科学サポーター研修会では、科学実験指導者を養成することを目的とした講座を実施しました。館内イベント（サイエンス教室・ワークショップ）での実習を含め全6回の講座を行い、受講者11名が修了しました。

6 の子ども創意くふう教室では、一人ひとりの創造性を伸ばすことを目的とした講座を 11 月に開始予定です。昨年度までは 5 回連続講座として行っておりましたが、参加者が好きな日程や題材を選ぶことができるようにすることで、より多くの方に参加していただけるよう、今年度からは個別の教室としております。

7 の出前教室は、科学館職員が、実施団体から依頼を受けて自然や科学、天文に関するテーマで行う教室です。現在小中学校からの依頼を受け付け中です。

8 のゆうゆう広場科学実験教室では、川崎市適応指導教室（ゆうゆう広場）に通う小中学生を対象に、科学館や各ゆうゆう広場にて行う科学実験教室を 9 月末までで 10 回実施し、95 人の利用がありました。

9 のかわさき GIGA スクール構想では、学校での理科教育のより一層の充実につながるよう、枳形山の地層観察会や地層貸出キットについて、端末を活用したデジタル教材を提供しています。

## 高中【出版事業】

青少年科学館「紀要」等出版物の刊行では、調査研究等、学芸事業の成果を「紀要第 36 号」に取りまとめ、科学館ホームページでの公表を予定しています。

地層観察ガイドブック改定版の発行については、現在原稿作成中であり、今年度中に科学館ホームページでの公表を予定しています。

教育普及事業は、以上です。

## 【（４）教育普及事業について質疑応答】

間瀬委員 まず 1 つ目ですが、天文の星空ウォッチングですが、通年の実施で 1 回実施済みということですね。今後もまだ何回かあるということですね。

弘 田 はい。今後も毎月何件か御依頼をいただいております。

間瀬委員 月数件ということで、わかりました。それから、科学の方で、サイエンスワークショップですが、これまで 27 回やられて 2,090 名の参加とありますが、毎回 70 名程の参加ということでしょうか。

清 水 やはり天候とかにも左右されますので、多いと 100 名を超える場合もあります。

間瀬委員 そうですか。すごいなあと思いました。ありがとうございます。それから、出版の方ですけども紀要のことが書いてありますが、これはいつ頃が発行の目途でしょうか。

高 中 3 月末に科学館のホームページに公表予定です。

佐藤委員 天文の 3 番のところで、珍しく観察しやすい天文現象の項目で 9 月末までの実績と今以降の予定が書いてあると思いますが、少し前に話題になった緑色の彗星とかは観たりしなかったのでしょうか。

弘 田 彗星は、科学館からでは観測条件がよくなかったため計画しませんでした。

山岡委員 同じく特別観望会で 11 月 22 日の土星の環のほぼ消失する時の観望会ですが、これは申込制とかにはせずに、来た人みなさんに観てもらおうという形でしょうか。



- 弘 田 当日先着 200 名で実施する形です。
- 山岡委員 先着 200 名。で、3 月 3 日の皆既月食は平日だから難しいということでしょうか。
- 弘 田 平日ということと、科学館からは東側が見えないということもありますので、周知といたしますか、普及の方に力をいれたいと思っております。
- 山岡委員 そうですね。撮影して SNS であげるということでも、存在感が高まるかと思えますので是非対応いただけたらと思います。
- 南條委員 ネットワーク事業にも書いてありますが、インターンの受け入れがあるかと思いますが、もし自然や科学の分野でこんなことをやったってということがあれば、大学生のインターンなのでこちらの教育普及の方に入れてはどうかと思いたすうがいかうがでしょうか。
- 清 水 大学生のインターンは来ていなくて、博物館実習をネットワーク事業の学習支援の 3 番に入れさせていただいています。
- 南條委員 それは教育普及という形ではないということでしょうか。
- 高 中 過去の委員の方の御意見を踏まえまして、当館が主となる事業の場合は教育普及事業、依頼によって発生する事業につきましてはネットワーク事業としております。
- 南條委員 そのように区分けしているということですか。博物館実習は教育普及に入れてもよいかなと思ひまして。
- 高 中 御意見ありがとうございます。

## 資料 1 により「(5) ネットワーク事業」について事務局より説明

### 清水【展示・企画】

FIELD MUSEUM 展では、令和 8 年 1 月 18 日（日）予定の専修大学「FIELD MUSEUM 展」に向けて、生田緑地の体験型教材として地層フィールドワークを 9 月に実施し、当日は 45 名の学生が参加しました。

### 高中【調査研究・収集保存】

調査研究・収集保存分野、川崎市域の生物調査では、「かわさき自然調査団」と共著で調査結果の公表を予定しています。また、「神奈川県植物誌調査会」の川崎ブロック事務局として資料の受入、問合せ等に適宜対応してまいります。

### 清水【学習支援】

学習支援 1 の職場体験・職業インタビューの実施では、市内中学校の職場体験を 6 月～9 月にかけて 3 校、市内高等学校のインターンシップを 8 月に 1 回受け入れ、12 人の生徒が参加しました。

2 の中学校連合文化祭では、10 月 22 日、市内中学生が集まる市中学校理科作品展受賞式及び研究発表会の会場としての協力をし、生徒教職員合わせて 104 名の参加がありま

した。

3の教員・職員等研修の受入れでは、総合教育センターの依頼による中学校理科初任者向けの科学実験研修、市内の小中学校及び理科研究会などの依頼による地層観察や天文の研修会を7月に、横浜国立大学との協働によるCST（コアサイエンスティチャー）養成講座を9月に実施しました。博物館学芸員実習は、8月に実施しました。各種研修で延べ96人の参加・受入れを行いました。

#### 弘田【地域振興・生田緑地内】

地域振興・生田緑地内のネットワーク事業といたしまして、1の図書館、区役所等との共催事業は、10月の区民祭では市民によるプラネタリウムの特別投影を実施し、4回の投影すべてで満席となるなど好評でした。

2の地域の大学、団体等との共催事業は、5月に川崎天文同好会と共催による講演会を開催しました。また、9月に多摩天文グループによる紫金山アトラス彗星写真展を開催しました。

3の生田緑地内施設との共催事業は、「七夕体験」としてプラネタリウムでの七夕投影の実施、民家園での飾りつけ体験などを実施しました。「お月見」のイベントでは、民家園でのお月見トーク、お月見プラネタリウムを実施しました。

4の生田緑地内施設及び指定管理者との広報活動の推進、各施設の回遊性の向上では、生田緑地の全体会議や広報担当者会議などへ参加し、生田緑地全体での情報共有や横断的な広報活動を行っています。また、民家園や岡本太郎美術館、藤子・F・不二雄ミュージアム、登戸行政サービスコーナーの5ヶ所での夏休みのスタンプラリーや、生田緑地内全体の紹介をするフリーマガジン「もりのにじ」の作成などにより、施設の回遊性の向上を図りました。

ネットワーク事業は、以上です。

#### 【（5）ネットワーク事業について質疑応答】

山岡委員 七夕とお月見についてですが、それぞれいつ実施されたのでしょうか。

弘 田 七夕につきましては7月5日と6日、お月見につきましては10月4日に実施いたしました。

山岡委員 ありがとうございます。それぞれ日の近い週末に実施ということですね。もちろんそれでよいのですが、伝統的七夕とか十三夜とか御活用いただければと。先ほども科学館に来るまでに、民家園で十三夜に関しても11月2日にイベントをやったように書いてあったので、何かにつけて御活用いただければと思います。よろしく願いいたします。

佐藤委員 博物館実習についてお伺いしますが、休みはあったかもしれませんが、8名の方がずっと2週間参加されたんでしょうか。それとも分散して参加するというか、計画として2週間だったということでしょうか。

弘 田 8名の実習生が、実質的10日ですが、同じカリキュラムで実施をいたしました。

佐藤委員 わかりました。10日間でしたら、文化庁のガイドラインでは通常だと5日間30

～45 時間以上で、長期実践型実習ですと 10 日間 80 時間以上ということで、後者ということですね。

弘 田 おっしゃるとおりです。

#### 資料 1 により「(6) 管理運営」について事務局より説明

##### 渡邊【管理運営】

1 の管理業務は、指定管理者と連携して円滑に運営を行っております。

2 の危機管理につきましては、職員が毎月分担して館内の定期点検を行っております。また、9 月 26 日に火災発生を想定して、非常放送設備を使用した通報訓練や消火栓から実際に放水を行う消火訓練を実施しました。内容は未定ですが、2 月又は 3 月に防災訓練を予定しております。

3 の進行管理につきましては、専門部会での御指導や御助言、事業評価などを踏まえ事業計画を策定し、より適切な事業内容や実施方法などについて検討しながら事業を行っております。

##### 渡邊【科学館の魅力を高めるサービス】

1 の広報計画につきましては、隔月発行の科学館だよりや季節ごとに発行しているプラネタリウムリーフレット、ホームページや SNS などによる情報発信を積極的に行っており、6 月には専門部会で御助言をいただいております。Instagram のアカウントを開設し、発信を始めました。フォロワーは 9 月末日現在で 268 名となっております。まだほかの SNS に比べ少ないですが、毎月徐々に増えている状態です。なお、Instagram の開設に伴い、過度の業務負担とならないよう、他の SNS と比較検討した結果、Facebook の更新を 12 月に停止予定です。

2 の魅力を高めるサービスにつきましては、スタッフが適切な案内や接遇を行い、アンケートでも高い評価を受けています。また、学芸職員の来館者や電話でのレファレンス対応や、ショップやカフェなどにおけるサービス向上などにより、魅力の向上を図っています。

3 の多様な利用者への配慮につきましては、館内はバリアフリー対応となっているほか、英語・中国語・韓国語の館内案内を用意しています。また、プラネタリウムにはヒアリングループを設置しており、受信機の貸し出しも行っており聴覚障害者などの聞こえをサポートしております。また、展示事業でも御説明しましたとおり、字幕投影に向け、取組を進めております。

管理運営は、以上です。

#### 【(6) 管理運営について質疑応答】

山岡委員 危機管理のところの訓練というのは、単館で科学館だけでやっているのでしょうか。近隣というか生田緑地の内の他の施設で共同というか連携して行っているのでしょうか。

渡 邊 年 2 回行っております消防訓練につきましては科学館だけでの実施となっております。

山岡委員 わかりました。例えば広域避難所になっていたりすると思いますが、そのようなときに連携した、受け入れのやり方など相談しないといけなかったりするのかなと思いました。というのは、うちがそうなので。

渡 邊 科学館自体は避難所にはなっていないのですが、生田緑地内の施設として考えると科学館でもトイレや場所の提供は必要となってくるとは考えています。

山岡委員 対応の確認とか相談をしておくのがよいのではないかと思います。

渡 邊 ありがとうございます。

眞壁部会長 これをもって、中間報告を了承します。

#### 4 報告事項について

##### (1) 第3回専門部会（事業視察）の希望調査について

渡邊 資料2により説明

第3回の専門部会は現地視察と位置付け。

資料2「視察事業希望表」により11月20日（木）までに科学館へ返信。

視察当日は事業終了後10分～15分程度、質問応答。

複数回の視察でも、委員報酬の支払いは1回分のみ。

【質疑応答】

無し

##### (2) その他

渡邊 報酬の支払い、駐車券の扱いについて説明。

眞壁部会長 本日の議題は以上。全体を通してコメントはあるか。

【質疑応答】

無し

#### 5 閉会